

発行所〓社会通信社 発行人〓滝野 忠

ホームページ <http://shakaitsushin.cool.coocan.jp/> e-mail: shakaitsushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八―二九〇四 電話・FAX(03)3299―5367

郵便振替〓〇〇一〇〇―九―五八四三一 労金〓中央労金本店No.1154163

〈もくじ〉

■巻頭言■

うれしかった 米山氏当選

相田 邦夫… 2

新潟知事選 三条市からの報告

『もんじゅ』と核燃サイクルの終焉

原 野人… 5

―はかなく消えた独占資本の夢―

搾取を強め産業予備軍つくる

本村 充… 7

―今後の「労働者政策」の特徴と狙い―

駅頭で 極右の内ゲバ宣伝合戦

稲村 守… 10

高江（沖縄）に行ってきました！

増田 都子… 11

読者からのおたより …… 11

編集部だより …… 11

刊旬社社会通信

NO.1228

二〇一六年十一月十五日号

（二〇一六年十一月十五日発行
毎月一日・二五日二回発行）

うれしかった 米山氏当選

新潟知事選 三条市からの報告

国定（三条）市長と森候補

米山知事誕生から三日目、三条市に住む小生から見た闘いの報告を見通しを含め、思いつくままに書いてみたい。

三条市長は敗れた森氏を担いだ中心人物だった。地元紙「三条新聞」十月十九日付は、「貧乏くじを引いた責任は市政運営で取り返すだけ」と報じた。

おどろいた。森氏が負けた責任は「国定市長の責任でなく、国定市長は逆に被害者」と言わんばかりだからである。国定市長は「国と仲よくする知事が良い」として泉田知事を引きずり降ろす先棒を担いだ。本心は自ら立候補しなかっただろうが。しかし、県民はおろか三条市民の信任さえ得られず、惨敗した。三条市民の信任さえ得られなかった国定市長は速やかに市長を辞めるべきである。

なぜなら国定市長は「一体校反対運動に耳を貸さず、校区の反対運動には敵対し、選挙に当選したのだから悔しかったら、私を倒せば良い」と、数々の問題をおこし通して来た。（国定市長の悪行のいったんは別に先に発行した『まやかしの教育』を参照（本誌1204号に書評）。まさに三条市政と県政を崩壊させる張本人が国定市長である）

新潟の夜明けが始まる

十二年前の7・13水害、つづく新潟県中越地震。さらに、「中越沖地震」。その後に柏崎刈羽原発に入った福島みずほは社民党副党首、阿部知子衆議院議員ら多くの弁士は、原発敷地内の当時の一メートルの段差、火災の発生、原発敷地内の惨状を街頭演説で個人演説会で県民・市民に訴えた。その後の全国的な水害・地震の前触れだったと思うこの頃である。日本列島は災害列島である。今や誰の目にも知られるようになった活断層がひしめく日本列島。こんな地形に五十五基も原発をつくり続けて来たと思うと改めてゾッとする。

新潟県は「杉の木」と「男の子」は育たないと言われて来た。湿った雪が多く降るため、杉の木は小さい時から根本から曲がり、男の子は小さい時に特に育てにくいことから来た言葉ではないか。住みにくい新潟を捨てて全国へ羽ばたき、活躍した多くの先人がいるわりに、先の諺が使われて来た。現在は、暖冬が続き、諺を使う機会・人が少なくなってきたが…。

泉田知事は、加茂市出身である。まだ若い。せめてもう一期をという多くの県民の声を無視した。人の言うことは聞く耳持たない首長の策略にはまった。そのシナリオは誰が書いたのか。いろいろ報じられているのを整理すれば明白だ。多くの人は泉田知事の辞任に驚いていたが、こんなによつてたかっていじめにあえば「イタチの最後つ尻（ぺ）」よろしく、地元全県版「新潟日報」に売られたケンカに怒り買って「原

発争点」の県知事選挙を残してくれた功績は見事であった。それを受けとめた県選対と各地選対に結集した人々。県民は冷静な判断をした。

自民と電力資本の正体、闘う県民

先の七月参院選では、電力総連推薦の小林正夫は、六年前より四十五都道府県で票をのき並み増やした。しかし、大分と新潟県のみは減票した。電力資本から見れば「目の上のたんこぶ」である。大分は「隠しカメラ」事件、新潟ではなにがなんでも「原発再稼働だ」が彼らの本音。どんなことをしても選挙に勝たねばならなかったはずが負けた。経済も自然も破壊し、生きのびようとする自民党や電力資本の異常な社会。

自治労新潟は先の参院選で社民党・吉田党首の票を大幅にのばしたが、勝利できなかった。知事選では連合の森支持で、自治労新潟は自主投票となった。しかし、自治労は米山支持が圧倒的だった。三条では、市職推選で当選したばかりの「酒井市議」は仲間の声も聞かず、森支援で動き、街頭演説の司会をし、国定市長や、自民金子めぐみ衆議院議員、多くの自民市議を横に並べて得意満面であった。今後はどうするのだろうか。

小生のまわりには、自宅前に政策ポスターを貼り、掲示板のポスターを玄関開けると正面に見えるように室内用に使い、二回の政策ビラを近所の人に二〇〇〜三〇〇戸に配布した人は八十四歳の高齢者。手紙で「米山」支持を訴えた先輩、八十五歳の高齢者がポスター貼りに奮闘している。会場がとれず、二〇〇人規模の集会に三〇〇人を集め、ギッシリと埋まった中には前三条市長の姿もあった。この集会では菊田民進代議士もあいさつ。これらの動きで国定市長は大きく動揺したと言われている。

わずか二十三日間の選挙戦

秋の彼岸開けの九月二十三日からの事前六日間。二十九日からの本番十七日間の選挙戦を制し、十月十六日に開票された新潟県知事選挙は原発反対・再稼働反対の米山候補の圧勝で終わった。告示後でもさっぱり市民に配るビラさえ満足にない中で…。

序盤では、阿部知子・民進衆議院議員は医師仲間として、さらに社民党副党首福島みずほ参院議員らが来条した。小生からみて潮目が変わったのは十月七日新潟駅前前三千人の街頭演説会ではなかったかと思う。ここには志位共産党委員長、生活の党小沢代表、社民福島副党首、民進党元官房副長官・松野頼久衆議院議員の三党首クラスとプラスチックにさらに地元新潟の新社会党小林義昭委員長や緑の党の中山均新潟市議ら多くの市議が参加した。地元紙は「この夜の新潟駅前には『異様な熱気に包まれた』と報じた。最終盤の十四日（金）には民進・蓮舫代表も来新。

終盤、相手「森の再生する会」2号ビラは「赤旗を県庁に立てさせてもいいのですか?」「共産党・生活の党・社民党主導の知事では県政が大混乱し、新潟県は国から見放されてしまいます!!」など。これが自民・森選挙の正体か。こんなビラで県民はだまされない事を証明した。四十四年前の稲村革新市長誕生の選挙では「稲村が市長になると市役所に赤旗が立つ」と言われたが、こんな事を政策ビラに書く自民党の時

代錯誤にあきれるばかりだ。ちなみに新潟県の旗は赤色で毎日、県庁に立っている事を全国の皆様にお伝えしたい。

長い反原発の闘いと知事選

一九六六年（昭和41年）の松井誠知事選から杉山善太郎、松沢俊昭、稲村稔夫、坂上富夫、今井敬弥各国議員等経験者を擁立しての知事選。一九八九年（平成元年）、志苦裕知事選を最後に日本社会党の知事選は終わった。今からふり返ると松井さんと志苦さん以外は常に大きく敗れ去った。その後、ここ2回は共産党が立候補したが、社会党時代以上に大きな敗北であった。反原発を担って敗れた先輩諸氏に知事選勝利を報告したい。

今、3・11以後、五年半の経過の中で、甘く見ている自民党に対し、この選挙は東京電力・政府をはじめとする柏崎刈羽原発再稼働派とそれに反対する新潟県民との戦いであった。米山候補が勝って原発再稼働は当面四年間絶対許してはならない、「四年後には必ずもう一度勝つ」を相言葉に全県民に訴え、強固な組織づくりを熱いうちに急ぐこと。相まって廃炉に向けて大きく一步動き出す。柏崎刈羽原発は廃炉にして、その廃炉技術を輸出すべきであると選挙を勝利して言われはじめている。市民からの「青森六ヶ所村の最終処分場もできないのに、再稼働なんてありえない」という声も選挙中いわれた。

勝利と今後の展望

世界には廃炉にしないといけない古い原発が多い。廃炉にはロボットも含んだ高度な技術が必要だ。廃炉産業が新潟県の代表産業になるかも知れないと言われている。長岡市の技術科学大学や三条・燕等のものづくり産業の技術をどう生かすかが問われているという話も具体化されるのも遠い将来のことではないかも知れない。米国のシリコンバレーのような産業地帯は日本全国にあると、わざわざシリコンバレーで昨年安倍は言っていたが、今こそ新潟知事選の結果を見て国会で語れ。

福島原発事故を起こし、それをいまだに収束もできず、隠ぺいだけを繰り返している東京電力には原発を動かす資格はない。東電は民間会社だ。自力で経営できなければ、倒産させ解体すべきだ。東電の経営陣は民事のみならず、刑事面からも厳しくその責任を追及されるべきだ。他の民間会社は当たり前に行われているではないか。新潟県内に三千人、全国で九万人の福島県民がいまだに故里（ふるさと）に帰れないでいる。

選挙を通じて共闘のあり方や統一戦線のあり方に熟練しないといけないことも学ぶことができた。東京や関東圏に住む人々は地方の現状に学び、自らの地域で使う電力は自らの手で作る事、それがかつての巻原発住民投票勝利から、さらに新潟の知事選勝利が全国に発信する新たな段階の反原発・脱原発闘争のはじまりである。若いエネルギーがそこに結集され、そこには新しい組織がつけられるのではないかという問題提起をして報告としたい。

（相田 邦夫）

『もんじゅ』と核燃サイクルの終焉

―はかなく消えた独占資本の夢―

悪夢の原子炉

安倍政権もとうとう「もんじゅ」（福井県）を廃炉にせざるを得なくなつた。

「もんじゅ」を原型炉とする高速増殖炉と再処理工場（青森県）とによる核燃料サイクルこそは、燃料をプルトニウムとして増殖し、準国産燃料として、夢のサイクルになる、とマフィアのごとき独占資本とその政治的代理人たちは喧伝してきた。天然ウランに微量しか含まれない核分裂性のウラン235だけでなく、主成分である核分裂しないウラン238を燃料に転換して有効に利用できる構想である。

炉心に、プルトニウムの酸化物と、劣化ウラン（ウラン濃縮工場で濃縮ウランを取り出した後のウラン）の酸化物との混合酸化物（MOX）燃料を使い、周りのブランケットには劣化ウランや減損ウラン（再処理で使用済み燃料から回収されるウラン）を使う。

冷却材に水ではなく液化ナトリウムを使うことによって、中性子を減速させることなくウラン238に吸収させて核分裂性のプルトニウム239を作り、核燃料を増殖させる仕組みである。

遅きに失した日本

しかしナトリウムが漏れて水と接触すると爆発的に燃えるし、空気に触れれば激焼する。しかも出力上昇の制御性は極めて悪く、もし燃料被覆管が溶融して高純度プルトニウムが炉の底にたまると核爆発の危険さえ生じる。構造上、地震にはきわめて弱い。こんな装置が「夢の原子炉」どころか「悪夢の原子炉」であることは、とうに世界的に証明されていた。

フランスでは「スーパー・フェニックス」を二〇年前に閉鎖した。ドイツのカルカーでは少しも稼働させないまま、二五年前に廃炉とし、遊園地に改造されている。米国や英国でも三〇年前には中止した。日本でも、せめてナトリウム漏れを起こした二年前（初臨界の一年半後）の事故で、廃炉を決めるべきであった。

仮にプルトニウムを増殖したとしても、高くつくばかりで、安全性も経済性も成り立ちえないことが実証されている。

当初にかかる費用は三五〇億円の見積もりだったが、すでに一兆二千億円を浪費した。停止状態でも日に五千万円の維持費を要する。廃炉費は三千億円とされる。

さすがの原子力規制委員会も看過できず、「もんじゅ」を運営する研究開発機構の交代を勧告してみたが、代りの運営主体があるはずもない。この運営など、計算高い電力会社が受けるはずもない。これに関わってきた技術者等自身が、現実性のない悪夢の装置であることを知っているからこそ、一万件もの点検や修理を怠ってきたのであろう。

核武装の余地は

とはいえ軍事部門の独占資本とその政治的代理人のなかには、岸信介元首相を祖父とする安倍晋三首相を筆頭に、戦争立法と改憲のかなたに自前の核武装をめざす諸君も少なくない。核分裂性プルトニウム239の純度の高い物を作って、H2Aロケットなどで使える核弾頭にしたいという思いも弱くない。そのために高速炉から全面撤退するのは無念である。彼らはフランスと共同で高速炉『アストリッド』計画を進めたり、いまさら古い実験炉『常陽』（茨城県）を生かして、その余地を残すことにした。

もつとも原発の使用済み燃料から海外委託等の再処理でできた低純度のプルトニウムならすでに四八トンも保有し、長崎型原爆を六千発も造ることはできる。低純度だから、軽い核弾頭用には無理であるが、飛行機での核兵器に使うことはできる。戦手法と改憲によって、爆撃機を持つこともできる。装備されているP-1哨戒機やC-2輸送機を生かすこともできるし、MRJ（三菱リージョナルジェット）を改造利用することも可能となる。

使用済み燃料の再処理と核燃サイクル

高速増殖炉が悪夢と消えれば、再処理工場も無意味となる。

使用済み核燃料は、再処理しないまま管理保管するほうがはるかにましである。再処理工場では第一に、燃料被覆管内に閉じ込められている放射性ガス（クリプトンやキセノンやヨウ素等）が全部大気中に放出されるからである。第二に、使用済み燃料は高温の強酸で溶かして処理するので、これに長時間耐える材質はない。ときどき穴があき放射能漏れ事故を起こすため、ともに長時間動いている再処理工場は世界でどこにもない。第三に、そのため労働者の被曝は深刻となるし、高濃度汚染水の海への排出も多くなる。第四に、プルトニウムを溶解し、溶液で扱い分離・精製するので、プルトニウムがどこかにたまり、臨界量を超えて暴走することが起こりやすい。

このような再処理工場は『もんじゅ』とともに、速やかに廃止するのが当然である。だが目先の利潤しか考えない電力資本は、使用済み燃料を原発敷地外にもつていてしまいたい。それには再処理工場は稼働しなくとも、廃止にはしたくない。

どこまで増える庶民負担

再処理工場（青森県）は一九九三年に着工し、一九九七年完成予定だったものが二十三回も「完成延期」を繰り返してきた。建設費は当初予定の三倍にふえ、二兆二千亿円を超えた。事故続きで稼働していないが、すでに七兆三千億円を浪費した。

再処理工場と『もんじゅ』やMOX燃料工場（建設中）など、核燃料サイクル全体としては既に一二兆円を浪費したが、稼働不能でも毎年一千六百億円かかっている。

再処理工場の事業主体は電力会社の出資する日本原燃だったが、電力会社の手におえなくなり、国が監督する「使用済燃料再処理機構」を新設して、ここに責任を移した。同機構は日本原燃に再処理を委託する形をとるが、国家が事業計画等の前面に出

て、税金も使つての延命であろう。こうした延命・浪費によって、庶民の負担がこの先どれほど増えていくことか。

高レベル廃棄物は

政府は、再処理工場を延命させる理由に、普通炉（軽水炉）でのプルサーマル推進をおく。しかし再処理で抽出されたプルトニウムは、ウランに比べて極めて高くつく。電力会社は、英仏から加工・返還されたMOX燃料を、お義理で使わざるを得ないが、なくもがなの買物である。原発の出力制御が難しく危険性を増すだけでなく、使用済みのMOX燃料は、普通の使用済みウラン燃料より冷却を要する期間が長くなる。有害な放射性物質の量も多くなり、再処理の方法も、そのあとの処分の方法も定まっていない。

使用済み燃料は、前記のように再処理はしない方がましであるが、ウランとプルトニウムとを抽出した後の廃液は、様々な核分裂生成物等を持っていて、強い放射線を出す。ガラスの原料と混ぜて溶融しながらステンレスのさや（キャニスター）に納めるとはいっても、均一にガラス固化などできるはずもない。ガラスとなじみにくい物質、脆化させやすい物質も含まれる。キャニスターに流し込んだ後、固めるのに急冷すればひびが入りやすく、時間をかければ重金属（核分裂生成物）が底に沈降しやすくて局部的に放射線と熱が強くなるので、いずれにせよ脆化が速くなる。

この点でもジルカロイの被覆管に納められた使用済み燃料のままで、空冷機密容器にいて、十分な耐震施設の中に管理保管していく方がましである。

安倍政権は沿岸海底下などに、この処分場の「適地」を定め、上意下達で決めようとしている。日本列島にはいくつものプレートがせめぎあい、無数の活断層と火山帯が走る。地下水も豊富で、海底なら海水も浸入する。地下に埋設して、一〇万年も閉じ込めておくことなどできるわけではない。

（原 野人）

搾取を強め産業予備軍つくる

― 今後の「労働者政策」の特徴と狙い ―

「働き方改悪」その目玉

厚生労働省は八月二六日、平成二九年度予算の概算要求を取りまとめた。要求額は前年度の予算額（三〇兆三一一〇億円）より二・七％増加して三一兆一二七億円、そのうち年金・医療等にかかる経費が二九兆一〇六〇億円（対前年度比二・三五増）を占めている。

厚生労働省の重点分野として、「一億総活躍社会」の実現に向けた取り組みとして「働き方改革の推進」があるが、その目玉となるのは、「非正規労働者の正社員転換・同一労働同一賃金の実現に向けた待遇改善等」であろう。

具体的には、「同一労働同一賃金の実現に向け、各都道府県に『非正規雇用労働者待遇改善支援センター（仮称）』を設置し、コンサルタントによる個別相談援助など

を実施する。」「短時間正社員制度の導入・定着支援のため、マニュアルの活用、セミナーの開催等により、導入手順や運用方法等の情報提供を行う」、「多様な正社員の導入や非正規雇用労働者の正社員転換について、モデル就業規則の作成、企業に対するコンサルティング、好事例の収集、専用HPによる周知・啓発、企業向けセミナーなどを実施する」、としている。

「生産性向上」とセットで

そのための「労働環境整備」としては、「生産性の向上」とセットで次のように述べている。

「パートタイム労働者と正社員の均衡の取れた賃金決定を促進するため、職務分析・職務評価の導入支援・普及促進を行う。また、パートタイム労働者の活躍推進への取組を積極的に進める企業を表彰し、その取組を広く発信するとともに、人事評価等の制度整備に取り組む事業主を支援する。」「長時間労働の是正に向けた法規制の執行強化・月八〇時間を超える残業が疑われる全ての事業場に対する監督指導の強化を図るとともに、時間外及び休日労働協定（三六協定）の適正な締結・届出のための周知広報を行う等により、法規制の執行強化を図る。」

「労働生産性向上に資する人材育成の強化・専門実践教育訓練給付制度、教育訓練プログラムの開発による労働者の自発的な能力開発支援や、キャリア形成促進助成金の抜本的見直し等による企業内訓練の推進、民間人材の活用による在職者訓練の拡充など、IT分野をはじめ、労働生産性向上に資する人材育成に向けた取組を一層推進する。」

「人材の最適配置のための職業能力評価制度の構築・技能検定制度が産業界の人材ニーズに適合したものとなるよう、職種・作業の新設・統廃合や等級・試験基準等の見直しを推進するとともに、学生・生徒等の若年層を主な対象とした技能検定三級について、積極的な設定を進める。また、社内検定制度の構築に取り組む企業の開拓から検定構築のサポートまでの一貫した支援等により、社内検定の拡充・普及促進に取り組む。」等々。

すべてを紹介することはできないが、この特徴的な事柄から今後の「労働者政策」の方向性を推測することができる。

「同一労働同一賃金」 厚労省の主張

まず、「同一労働同一賃金」についてである。これを普及させる前提として「**職務分析・職務評価の導入・促進**」がある。もちろん企業側がこれを行うのであるが、何を基準として職務順位を決めるのかということがある。企業側の主観的、意図的な評価が入ってこないとは限らない。他の企業との「評価」のバランスをどうするのかという問題も残る。さらに、「評価」によつては今よりも賃金の下がるという問題も出てくる可能性がある。あくまでも労働者の生活を維持・向上させることを前提としての「同一労働同一賃金」でないと労働者にとっては何の意味もない。

そして「人事評価等の制度整備」である。どのような「人事評価制度」を目指すのか。それは、「労働生産性向上に資する人材育成」に向けた「人事評価制度」である。とりわけIT産業を中心とした分野へはより積極的に取り入れる方向である。要は、企業の「生産性向上」に寄与した社員を「評価」し、総体的に「国際競争力」を強化するための人材を積極的に育成しようというわけである。労働者間の競争をあおり、格差をより拡げていく危険をはらんでいる。

第三に「職業能力評価制度の構築」である。これは、「人材の最適配置のため」と位置付けられている。要は「職能制度」の強化ということであろう。この「職能制度」自体は取り立てて目新しいものではない。日本の「人事制度」のなかでは比較的以前から、一九六〇年代から七〇年代初頭にかけての経済の高度成長下で好まれて使われた手法である。

「職能」とは「職務遂行能力」のことで、企業の期待する職務遂行能力をどの程度有しているかによって社員の序列づけを行い、「職能給」として賃金に反映させる制度である。そもそも「職能制度」も、もともと人を基準とし、能力ある社員をいかに処遇するかを考えた制度である。社員に様々な職務を経験させることができるなど人材育成に大きな効果を発揮してきたのも事実である。「職業能力」とは、「どの職業に向いているかどうか」ということで若干異なっているような気もするが、あくまでも「生産性向上」との絡みで出てくるものであるから、結局は、「企業の利害に合致した能力」ということになる。企業側の「賃金制度」を通じた労働者支配の強化に容易につながる危険が懸念される。

第四に「社内検定の拡充・普及促進」である。これは「産業界の人材ニーズに適合したものとなるよう、職種・作業の新設・統廃合や等級・試験基準等の見直しを推進」するためのものとしている。一社だけでは限界があるが、これを全国的、全産業的なものとして展開していけば、平均的な人材が育成されることになる。どの会社でもすぐに使えるような労働者が増えるということである。逆に言えばこれは、労働力が流動化しやすいということも意味する。つまり「労働力の流動化」を全国的に生み出す手法ともいえるのだ。

労働密度

最後に「長時間労働の是正」ということにふれよう。昨今、「過重労働」が社会問題化される中で「時間外労働の規制」ということは、労働者にとっては喜ばしいことである。「過労死」や「精神疾患」などが是正されるきっかけとなるからである。ただしこのことが逆に「労働密度」の強化という状態になったとすれば、それは「是正」とは言えない。一番危惧する問題である。

今後予想される「労働者政策」の一端を述べてみた。ある意味では当たり前のことであるが企業はすべてを「生産性の向上」のために動員するのである。そのために労働者を「搾取」という構造は厳然と存在する。私たちはけっしてこのことを忘れ

てはならない。

労働者は「労働力」を売ることによって生活が成り立つのだという現実を見つめ、「労働力」を安売りしてはならない。そのために、労働者は「団結」しなければならないのである。

(事務局長 本村 充)

駅頭で 極右の内ゲバ宣伝合戦

過日、「さいなら原発10・23びわこ集会」のビラまき宣伝を、滋賀県内のJR湖西線の駅頭で夕方行いました。そしたら先客がいて、日本会議系のような右翼女性が高性能マイクで大音量の演説し、二本ののぼり（組織名ののぼりと「なんとか日本」と書いてあるスローガンののぼり）を若い男性一人が両手で持ち、二人の男が北と南でビラを撒いていました。回りにやたら公安警察が多く、なぜだろうと首を傾げていると、しばらくしたらその右翼を批判する演説が道路の向こうで始まり、公安警察が始動しました。

極右の内ゲバ宣伝合戦とこちらの反原発市民運動の宣伝、公安警察という四つどもえの異様な状況となってしまいましたが、日ごろのんびりした湖西線の客もさぞやびつくりしたことでしょう。

私たちのビラの「さいなら原発」という見出しを見て、安心してビラを受け取ってくださる方がたくさんいたことが救いでした。「こういうビラをみると安心するわ」。なんですかあれ！この駅であんなの初めてです！」という中年の女性の方も。「怖い世の中になってきましたね」と私が言うと、「本当にそうですわ」と。

それにしても、その内ゲバの対象とされていた聞いたこともない組織名のノボリの女や男たちの演説です。

「日本は神の国です。万世一系の天皇をいただく、この世界で唯一の日本という国を理解できない国民ばかりです。生前退位問題を『有識者』などというわかっていない人間があれこれ恐れ多くも『議論』するなどと言うことは許されません。それをバックアップするマスコミもみな外国人に支配されてしまっているとしてもない現状です。民進党の党首も名前からして外国人ですし、共産党は国際共産党の日本支部で、もともと外国人がやっています。この神の国 日本を守らねばならないのに、ことごとく外国人に支配されている本当に大変なありさまです！」と、危機感・悲壮感にかられた現状認識です。

第三次安倍政権で国会 衆参三分の二を改憲勢力が占め、憲法改悪まじかで順風満帆と思いきや、真逆の現状認識・感覚で内ゲバまで。それもかなりのローカル線沿線という事態に驚きました。

日本資本主義を背負って立つ超エリートが『資本主義の終焉』云々というような本を書いてベストセラーになり続編を連発し、私たちは購読しないけど彼らは一冊六千円もするピケティのあやしげな分厚い本をどんどんむさぼり読む。資本主義は、私たちが思う以上に限界に近づいてきているのかもしれない。私たちもたかが一〇年や

二〇年の国政選挙敗北や不出馬くらいに動揺せず、しっかりとマルクス『資本論』の学習会から始める時だと思います。

(稲村 守 二〇一六・一一・一)

高江（沖縄）に行ってきました！

十月二五日～二九日まで、高江に行ってきました！世界的にも貴重な種：ヤンバルクイナやノグチゲラ、ヤンバルテナガコガネ等：が生息し、一五〇人の住民が生活している沖縄県国頭（くにがみ）郡・東村（ひがしそん）高江のヤンバルの森を伐採し、米軍オスプレイのためのヘリパッド建設が人々の反対を押し切って強引に進められています。すでに二つは作られてしまい、後の四つを安倍政権は年内にも完成させようと、警視庁や大阪府警等、全国から五〇〇名とも一〇〇〇名ともいわれる機動隊員を導入し、反対する人々を弾圧しています。

「今までの訓練場の北半分・約四〇〇〇ヘクタールを返してやるんだからモンクを言うな！」というのが米軍Ⅱ日本政府の言い分ですが「古くなって使い勝手の悪い普天間基地を返してやるから、最新鋭の新しい基地を辺野古の海に：貴重なサンゴ・ジュゴンの生息する美しい海を潰して：作ってよこせ」というのと同じ。熱風・爆音をまき散らし、住民の生活や貴重な種の生息を脅かす「オスプレイの訓練のための最新鋭のヘリパッドとそれに関連する様々な施設を作ってよこせ」というので、それから「負担軽減」などになるどころか、むしろ、「基地被害の拡大Ⅱ基地負担の強化」にしかありません。

大阪府警の機動隊員による「土人・シナ人」発言の余波が冷めやらぬ中、やっと私も仲間と三人で高江に行くことができて座り込みに参加してきました。二五、二九は移動日ですから、実質三日間：というより二日間と数時間というところなので、毎日、体を張って頑張っている方たちには申し訳ないですが：朝六時半に名護のホテルを出発し上る朝日に向かって車は走り、帰りは沈む夕日に向かって走りました。

*第一日目（二五日） 那覇空港からレンタカーで名護市のホテルに向かう高速道路で、三台の装甲車が同じ方向に走っていました。なんと、品川・練馬・足立ナンバー。警視庁の機動隊員たちが我々と正反対の目的で、やはり、名護市のホテル：たぶん、我々のようなビジネスホテルと違い、豪華リゾートホテル：に向かっていくようでした。装甲車やもう一つの少し小型の車両：名前はわかりませんが、以下の写真：をワンセットとして何台もフェリーで運んできているのでしょうか。

二日目以降の報告と、写真一八枚は、左のURLでご覧ください。とくに、写真は是非見てほしいんです： やっぱ「百聞は一見に如かず」「一目瞭然」。目の前で、機動隊・警察に守られてヤンバルの森を踏み潰すダンプが次々と通過していくのを見ると、『微力ではあるが、無力ではない』…、できることは、やっていきましよう！

http://masudaniyako.com/news/16/activity_in_Takae.pdf

(千葉・増田 都子)

◇ 読者からのおたより ◇

健筆を楽しむに 今後もホームページでの健筆を楽しむにしています。

(北海道・佐野周二)

読んでいきたい三十九分 今日には寒い一日でした。部屋の中においても、外の雨音が聞こえてます。社会通信の創刊号からNo.5号一九七七年十二月十一日まで読みました。近々号まで読み終えるのに、いったい何日必要なのか。最初の頃は滝野氏と『橘馨』さんの投稿。カットも小さいながらあったんですね。当時の社会党の様子だけでなく、他政党・経済界等も詳細にわかります。それにしても、三十九年分、よくぞ！よくぞ!!：嘉津子さんに脱帽 凄すぎます。おいおいに読んでいきたいです。(東京・兼子千栄子)

期待 お疲れさまでした。今後のホームページを期待しています。残金は、カンパと云うほどの額ではないですが、返金手続きも面倒でしょうし、カンパにしてください。ホームページで継続するということなので、大変でしょうが期待しています。また、バックナンバーの掲載は大変ありがたいです。大変なご苦勞をしたと思いますが、インターネットで公開されていれば、運動史研究者に資料として事実を提供することができると思います。私も、自分自身の関わって来た日本社会党と社会主義協会の総括を自分なりにしなければならぬと考えているので、『社会通信』のバックナンバーを参考にしたいと思っていました。助かります。(神奈川・細川正)

いよいよ 先日お手紙を拝見し、いよいよだなと思いました。長い間お世話になりました。また、ホームページは見させていただきます。あまりにわずかですし、御手数ですから、返金には及びません。これからは変わらずご活躍を。(兵庫・小城智子)

一区切り 一区切りとして、本当に長い間ご苦勞様でした。返金はカンパします。今後の活動にますます期待して。 (横浜市・内山功)

さらなる充実を期待 大変ご無沙汰しております。預り金の報告頂きましたが、少額で申し訳ありませんがカンパと言う事で整理方よろしくお願い致します。お身体には十分気を付けられ、これからもお元気で活躍されますことと社会通信のさらなる充実を期待しております。(札幌 仲尾)

関寛斎に興味 購読料の残額はカンパといたします。2015年1月、居住地清水町の町会議員になり2年目を苦戦しています。帯広市が生んだ「草森紳一」という作家の残した蔵書整理(現在3万6千冊がある、他にも3万冊を超える書籍は手つかず)のボランティアに関わっています。地元では全くの無名の人であるその彼が著した『宣伝的人間の研究 ヒットラー』や『中国文化大革命の大宣伝』等の書籍に触れています。宣伝・プロパガンダによってファシズムや独裁政権が維持されることを指摘したことを知り、今日的日本の現状に重ねてしまします。

個人的には、十勝管内陸別町に七二歳で入植した阿波藩御殿医だった蘭方医関寛斎に興味を持ちました。小説『胡蝶の夢』のモデルの一人関寛斎の足跡を調べるため今年、千葉県東金市と徳島市に足を運び、文献的成果はないものの実際にその地を歩き回るとは楽しいことでした。いずれ何らかの書籍に出来ることを夢見ています。お目にかかる日があれば幸いです。(北海道・北村光明)

斜里は故郷 佐竹論文(第1227号)感激です。現場にこれだけの素晴らしい活動家いることに大変嬉しく思います。斜里は私の生まれ故郷で、何度も講演に行ったことがあります。当時の斜里は町職、全林野、国労の三本柱があつて、地区労運動も活発で、地区労青年部、国労、全林野などに学習会に行ったことが度々ありました。私が、斜里が出身ということもあつて、国労の組織はなくなりましたが、私が行くと伝えると、今でも7、8人集まり一杯やったりします。

網走には、元国労の鈴木孝君、上野君(稚内出身)らがユニオンを立ち上げて網走の平和ホームラムに加盟して奮闘しています。鈴木君たちとは毎年交流会を持っています。ことし七月末の交流会には、新潟の小林さんも二年連続で参加しています。初めは私と帯広の関係から始まったのですが、もう六、七回交流をしています。今では帯広、釧路、紋別、美幌、網走などのメンバーで、全員合意のもとで、毎年徐々にメンバーを増やしています。国鉄闘争の財産をどう実践し、広めるか、そのためには、元国労組合員として、闘争団員として、今後どう生きていくのかが問われていると思います。北海道だけではなく九州でも、宮崎などから進めているところです。(千葉・山下俊幸)

編集部だより 今号からは、インターネット『旬刊 社会通信』として、これまで通り月2回(1日・15日付)、発行日の3日前までに、社会通信社のホームページから発行いたします。

ホームページは無料公開ですので、大いに宣伝し、出来るだけ多くの方々に見て頂き、感想等語り合っていたくださる願っています。また、そこでの問題やお互いの交流、運動や活動の報告、自らの思い、お知らせしたいこと等々、投稿いただければ嬉しい。